平地林は、地域の宝物

埼玉県南西部に位置する三富地域(川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町)は、豊かな緑が広がる畑作地域です。この地域は江戸時代から開拓され、屋敷林、農地、平地林で構成された長い短冊状の地割により特徴的な景観となっております。このように、大都市近郊でありながら、開拓当時の景観をとどめ、持続可能な伝統農法が継承されていることが評価され、2023年世界農業遺産に認定されました。

三富の平地林は、落ち葉堆肥や薪炭材利用など、人と自然が調和した手入れにより維持されてきた、農業の基盤であり、地域の美しい景観・歴史・文化を育む大切な存在です。





しかし、エネルギー転換、化学肥料の普及等により、木の利用価値や伐採の必要性が薄れ、開発や放置が進み、平地林が減少している現状があります。

三富の恵み、未来への贈り物

—平地林と共に歩み、活かす—

さんとめの木をいかす会

さんとめねっとHP

さんとめの木をいかす展
facebook

平地林の木をいかす　「さんとめの木をいかす会」の活動

かつて、落ち葉堆肥や薪炭材利用といった「活用」で共存した三富の平地林。
その循環は今、平地林の利用価値低下で失われつつあります。
「さんとめの木をいかす会」は、三富地域農業振興協議会の支援を受け、地域材による木製品利用で、「使って、活かす」視点から新たな里山の木の価値創造を目指し、2006年に活動が始まりました。

里山の木を使うことの難しさ：活用の壁

里山の木材活用は、樹種と生育状態に多くの課題を抱えます。一般的に里山の木材活用では、生木で提供される状況にあり、生育環境から曲がり材や小径木が多いです。樹種によっては乾燥時の割れや落ち込みが生じやすく、加工性も劣ります。そのため、そのままでは利用が限られると言えます。さらに、製材と乾燥に時間を要することも、活用を阻む要因となります。



丸太の搬出、製材、乾燥のための桟積みといった工程のほとんどが人の手によるものです。大変な手間と時間を要する作業です

里山の現状に則した商品開発と提案

私たちは、制約の多い里山の木材だからこそ、その個性を最大限に引き出すデザインと設計を追求しています。欠点である、曲がり材や小径木、虫穴や割れ。近年深刻なナラ枯れさえも、新たな視点で見つめ直し、その魅力を活かした製品開発と活用方法を提案します。





生木のまま作る木工、
グリーンウッドワークによる、
スプーン（上）ゴッホの椅子（下）



カシナガキクイムシによるナラ枯れの被害（左）虫食いの材（右）



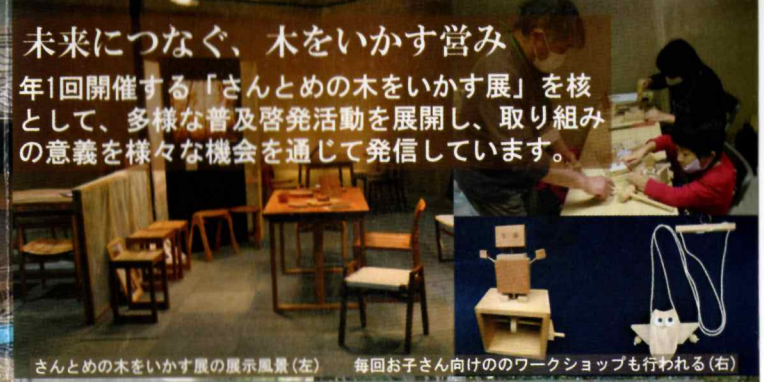


三富の木を使ったクラフト品
（上/エノキ）（下/ヤマザクラ）

ナラ枯れの被害を受けた
コナラで製作したベンチ

未来につなぐ、木をいかす営み

年1回開催する「さんとめの木をいかす展」を核として、多様な普及啓発活動を展開し、取り組みの意義を様々な機会を通じて発信しています。



さんとめの木をいかす展の展示風景（左）　毎回お子さん向けののワークショップも行われる（右）



2021年、GALLERY A'「樹の一脚展」では全国の木工作家が三富の木を使った椅子を展示（左）

三富のヤマにて同時開催されたスツール作りのワークショップ（右）



WOODコレクション（モクコレ）2024Plusへ
ナラ枯れのコナラ材を活用したベンチを出品

三富の木材を使った箸作りのワークショップ



いかす会会員によるナラ枯れのコナラ材を活用したベンチの製作

美しい里山の恵みを守りながら、未来につなぐ…その想いは、私たち共通の願いです。これまでの活動で培ってきた木を活かす知恵や技術、経験をあなたの地域の課題解決のため、情報交換や連携したいと考えています。
また、里山の木を活かす取り組みに御参加いただける方を募集しています。

お問合せ先｜三富地域農業振興協議会
(川越農林振興センター管理部三富農業・地域支援担当)
Tel｜049-242-1808
さんとめねっとHP｜https://www.santome.jp
さんとめの木をいかす展/facebook｜
https://www.facebook.com/santomenokiwoikasuten/

さんとめねっと HP

さんとめの木をいかす展 facebook